

- 福井県の気象条件に合った新品種、作型(初夏～越冬春穫)を確立し、**ネギの迅速な普及拡大**を目指す。
- 農業革新支援専門員が中心となり普及、試験研究機関、JA等と連携した**技術解決チームを結成**し、技術実証と**早期の普及推進**を図る。
- ネギの作付面積は、平成30年度に**130haを目標**とする。

目標とする成果

1 ネギ栽培マニュアルを作成

- 県内5カ所の**技術実証圃のとりまとめ**
- 農業革新支援専門員、普及指導員、JA等により**ネギ栽培マニュアルを作成**

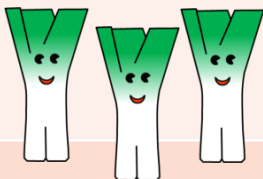


2 ネギの普及拡大

- 新品種、作型、機械化体系の普及により、ネギの生産量が拡大(H26→H28)

作付面積

70ha → 80ha → 90ha
(H26) (H27) (H28)



今回の普及活動の特徴

- ・ネギの早期普及拡大を図るため、**農業革新支援専門員が農林総合事務所、試験研究、JA等をコーディネートし、プロジェクトチームを結成**
- ・**ネギ担当の普及指導員が役割分担**し、それぞれの課題を調査研究とし、課題解決にあたる

目標を達成するための普及活動

平成26～28年

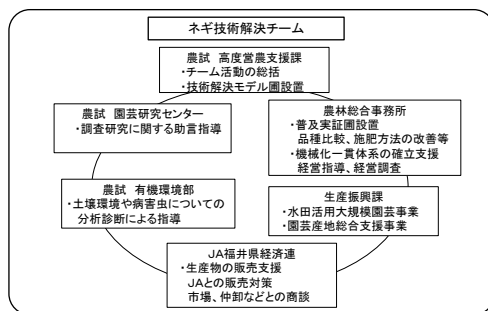
- 農業革新支援専門員、農林総合事務所、農業試験場、JA等で構成される**技術解決チームを結成**



- 周年栽培の確立**による**機械や雇用者の年間**を通した**活用**に向けた、**作型・品種**(病害に強く、在圃性に優れた)**の確立**
- 新規作型(初夏どり)の実証
- 地域に応じた作型別品種の検索
- 安定した収量確保、品質向上対策
 - ・主要病害虫の防除研修会
 - ・農業試験場からの発生予測情報発信



関係機関との連携



- ・**農業革新支援専門員**は技術解決チームの**リーダー**として**普及指導員、農業試験場、JA関係者等**の調整、指導

福井県

水田園芸の定着に向けた省力・安定生産技術の確立

活動期間：平成26～30年度

1. 取組の背景

本県では、水稲主体の農業生産が行われているが、基幹作物である水稲の価格低迷に伴い、農業所得を増加させることが急務となっている。そのような中、園芸を取り入れた複合経営を確立するため、露地品目ではネギについて、技術解決チーム会を軸として、①共通試験の実施による生産性向上対策の検討、②経営収支の把握により、指導者がレベルアップを図れるように活動を行った。また、作付推進においてJA等の関係機関と連携強化を図ることが重要であり、JA営農指導員を対象とした園芸専門指導員養成講習の支援も行った。



チーム会による実証圃巡回

2. 活動内容

(1) 作期拡大に向けた品種・作型の確立支援

生産が拡大するに伴って、市場からは年間を通じた供給を要望されている。そのため、ネギ技術解決チーム会を開催し、作期拡大に向けて、①水稲作業と競合しない、②単価が安定している、③栽培に手間がかかりすぎない作型として、新規作型試験（初夏どり、8～9月どり、4～5月どり）の設計について検討し、各地区で実証圃を設置した。また、チーム会を定期的で開催し、各地区の試験圃場を巡回して情報共有を図った。

(2) JA園芸専門指導員の養成支援

高度営農支援課がリーダー的立場として、JA園芸専門指導員養成講習会を開催し、水田園芸（ネギ）の生理生態、栽培方法、病虫害防除について講習を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 作期拡大に向けた品種・作型の確立支援

初夏どりを目的とした大苗育苗の試験圃（奥越、坂井）で現地研修を開催した。各地区で設置した実証試験結果から、8～9月どり、4～5月どりは導入可能であるとわかった。初夏どり（大苗育苗）は、地域に適した播種時期等について次年度も検討を行なう。

品種比較については、各地区から聞き取り、時期別使用品種一覧表を作成、提示した。その結果、品種の見直しにつながった。

定期的に行ったチーム会で、農業試験場生産環境グループから多発しているさび病・ハモグリバエ・アザミウマに関する防除情報を説明する機会を設けたことで、現地での防除指導に有効に活用され、収量や品質の向上につながった。チーム会での情報交換の中で、さび病の感染好適気象条件が生産現場の発生状況との関連性があることがわかり、次年度は発生予測として試験的に活用することになった。



病害虫情報の共有による適期防除の実施

(2) JA園芸専門指導員の養成支援

JA園芸専門指導員養成講習会には県内10JAの営農指導員20名が参加し、栽培技術の習得が進んだとともに、普及指導員と連携しながら現地指導する必要性が理解された。普及指導員と同じ視点で栽培指導できるように、普及指導員と同様に、指導対象農家を対象とした生産・販売・経営データを収集することを説明し、実際に優良事例として研修会内で発表を行った。



実技を取り入れた講習会

4. 農家等からの評価・コメント（大野市のA氏）

初夏どりは単価がよくて儲かる作型であり、そのためには大苗育苗技術は必須である。今後は、新規作型で周年出荷できるようになるといい。

5. 普及指導員のコメント

（奥越農林総合事務所農業経営支援部 企画主査 加藤 公美）

ネギは県域品目であり、技術解決チーム会を通じて各地区の課題や対策を聞いて現地に還元できた。また、地区独自の使用品種や栽培方法がとりまとめられ、参考になった。

研究員が参加することにより、研究を現場で活用することができるのは有意義であった。

6. 現状・今後の展開等

初夏どり(大苗育苗)の栽培技術を確立し作期拡大を図る。さび病の発生予測による効率的な防除体系を検討する。チーム活動を通して、新たに生産振興、経営について検討を行う。